

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400102		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野の花	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市大字前津1417-1		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成30年1月26日	評価確定日	平成30年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に四季折々の季節に応じた行事を職員と一緒に楽しんで頂きながら、田畑に囲まれた穏やかな土地で日々の生活を共にゆくりと過ごして頂きたいと考えています。またご家族様にも安心して大切なご家族が入居して頂けますように誠実にそして日々、研鑽を重ねながらケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム“野の花”の玄関に入ると、代表者(社長)と職員の皆様の優しい笑顔に包まれた。開設から3年が経過し、職員の入れ替わりも経験してきたが、着実に職員の結束は強くなっている。ホームには畑があり、ご利用者も収穫等を楽しまれ、食事は3食手作りで、旬の食材を使用し、彩りも綺麗な美味しい食事が作られている。干し柿や梅干しなど、ご利用者が培ってこられた「お仕事」ができる環境もあり、ご利用者が職員にご指導頂く場面も見られている。日々元気に過ごせるように、ホームの廊下を歩行訓練されたり、季節の貼り絵等も楽しまれている。地域交流も続けており、道路愛護に職員が参加したり、“野の花新聞”を回覧板に入れて頂き、地域の方にホームの取り組みをご紹介している。介護計画書も年々進化しており、事故やヒヤリハット対策も検討し、日々のケア内容と共に、注意点なども記入されている。今後も、ご利用者個々の心身状況と共に、立位や歩行などの詳細な能力(可能性等)を記録に残し、リスクマネジメントに繋げていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの目のつく所に貼ってあり、理念を基に行動している。	申し送り時に理念を唱和している。職員のチームワークも良く、お一人お一人の尊厳に配慮した声かけに努めている。ご利用者の役割や楽しみを増やすための情報交換も続けており、「1日1日を大切に「今」を大切に暮らしを支援します」という理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議への参加して頂いた。道路愛護への参加。地元中学校の職場体験などの受け入れ行った。	町内会に入られており、道路愛護には職員が参加している。“野の花新聞”を回覧板に入れて頂き、地域の方にホームの取り組みを紹介している。地域の敬老会と重ならない日程を調整し、ホームの敬老会を企画したり、中学生の体験学習の受け入れ企画も行われた。	今後も地域行事をホームの年間スケジュールに記入し、地域のお祭り等に参加したり、小学生や保育園児との交流も増やしていきたいと考えている。“子ども110番の家”として活用してもらい、地域の方にもAEDを使用して頂く予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花新聞を回覧板に入れて頂いた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見交換、質疑応答行っている。	会議は小規模多機能事業所と一緒に開催し、避難訓練も同日に行っている。ご利用者の状況や行事報告と共に、災害対策の検討も行われ、良き情報交換の場になっている。地域交流のアドバイスも頂いており、今後も頂いた意見の進捗状況を報告していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いた。地域包括支援センター主催の勉強会への参加している。医療、福祉従事者の集いへの参加	筑後市には主にケアマネが訪問しており、災害時の避難場所や災害時の対応について協力体制をお願いした。運営推進会議で感染症情報などの説明をして頂いたり、他のホームの取り組みも教えて頂いている。地域包括主催の勉強会やGH協議会の部会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所在確認を確実にし、個別対応の声掛けも工夫して行っている。また職員会議で勉強会も実施している。御家族へのリスクの説明	日々の職員の対応も優しく、穏やかに過ごされている方が多い。「身体拘束ゼロ」の取り組みを継続しており、ご利用者の体調変化やリスクが発生した時は原因分析し、医師や家族と最適な方法を検討している。感情が不安定な時なども想いを傾聴し、安心して頂けるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い再認識して防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネが権利擁護の勉強会に参加したり施設内での勉強会の実施を行っている。	入居時に、社長が家族等に制度の説明をしてこられたが、今後は管理者が説明していく予定である。制度を利用されている方もおられ、後見人との話し合いが行われている。管理者とケアマネが市の勉強会に参加し、職員に伝達研修している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時は、必ず御家族に説明し、また質問、意見等あれば、その都度説明して承らている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置やご家族面会時に意見や要望を伺い朝の申し送りや職員会議等で話し合いをして反映させている。	敬老会や誕生日会の時などに家族と集う機会が作られている。面会時や毎月の手紙で暮らしぶりや健康状態を報告し、家族の思いを伺うように努めている。認知面など体調への心配などもあり、一緒に話し合う機会を増やし、リスク対策の検討も続けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見交換や朝の申し送り、共有ノートを活用し意見や提案を聞いている。	毎月の行事担当や職員がアテアを出し合い、日々の楽しみを増やしている。主任、管理者、計画作成担当(ケアマネ)等との話し合いもあり、意見を伝えやすい環境が作られている。社長も職員の意見を快諾されており、社長への信頼も厚く、職員同士の助け合いも日常に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞いたり資格取得や子育て支援、各スタッフの状況や相談に応じ調整している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	そのスタッフの状況に応じ、勤務体制を整えている。新しく入られたスタッフには、マンツーマンで指導を行っている。	主任が職員採用の面談をしており、温かみのある方を採用している。「食事作りが得意」「飾りつけが得意」「お化粧やネイルケアができる」など職員個々のお力を発揮して頂いている。毎月の勉強会も継続し、職員の能力アップに繋げている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の職員会議や日常生活での気づきがあれば、話し合い、各入居者様に応じたケア方法を実地している。	理念にも『1日1日を大切に「今」を大切に暮らすを支援します』とあり、日々振り返りが行われている。社長は、「上から目線ではなく、尊厳の気持ちを持ち、人間対人間として接すること」等を職員に伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会や講習会、研修への参加。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会、地域包括支援センター勉強会への参加、医療福祉従事者の集いへの参加		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や御家族、前施設の職員さんに尋ねている。ホームで出来ること、他機関との協力が必要なことをよく説明する。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況をお聞きして困り事や不安、要望などをお聞きしケアプランに反映している。コミュニケーションを多くとる事により信頼関係を築いていけるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのようなサービスが必要になるか要望も含めて介護支援専門員が中心となって対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能に応じて、できることはして頂いている。(料理や食器洗い、洗濯物、作品づくりなど職員と一緒に)		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、手書きの手紙にて近況報告をしたり、面会時に話をしている。また受診など協力して頂いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族をはじめご友人や知人の方についても気軽に面会に来て頂けるような雰囲気作りを努めている。	ホームのパンフレットにも「住み慣れた地域で、なじみの人たちと暮らせるように…」とあり、ご利用者個々の生活歴の把握に努めている。美容室の送迎で馴染みの美容師から加って頂いたり、知人の訪問もある。家族とお墓参りや自宅に行かれ、草取りをされる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で会話をして過ごして頂いたりスタッフが間に入ってゲームや体操などを一緒におこなって交流の場を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前施設で看取りさせて頂いたご利用者様のお通夜、葬儀、初盆や一周忌の時にご自宅へお参りに伺っている。転居された後も御家族が季節の野菜や果物を持ってこられたりして交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、ご本人の好きなようにすごしていただいている。本人の意向があれば、それを職員へ伝え対応している。	会話がお好きな方が多く、要望等を伺っている。意思疎通が難しい方は職員が声かけし、家族からも生活歴等を教えて頂いている。「湯温の希望」「日々の活動の意向」「食べ物の好み」等、その都度の思いを把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や御家族、前施設の職員に尋ね、情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化や気付きなど職員会議や朝の申し送り、ノートなどを活用し伝達し話し合いや対応に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何か気付きがあればその都度報告し会議で話し合いを行い計画を立てている。	日々の体調観察と共に、3か月毎にアセスメントを行い、変化は赤字で記入している。ご本人の残存機能に応じて、できる事の記録も増やしている。担当者が毎月モニタリングを行い、職員間で共有しており、日課表の中に注意点などの記入を増やしてこられた。	年々アセスメント内容が深くなっている。今後は更にADL(起居動作、歩行等)の能力、転倒のリスク等の記録を増やし、ケア内容や注意点などの検討に活かしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入。朝・夕での申し送りでの伝達。大事な点は、申し送りノートへ記入。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や面会等、ご本人や御家族の要望に応じて制限なく対応。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物等支援している。ご本人、御家族の要望に応じて地域資源の情報提供を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望する医療機関を利用していただいている。また、必要時受診の付き添いや送迎などの支援をおこなっている。	往診を受けており、職員や家族が受診介助をされた時も含め、受診結果を共有している。基礎疾患を持っている方もおられ、医師から食事形態、栄養面等の指示を頂いている。職員の観察力も高く、異常の早期発見等に繋げている。検査の時等、家族に同席頂くようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時や日常での変化はその都度報告、相談を行い必要時には受診などで対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話での情報交換をおこない、職員が面会に伺う、医療機関との協力体制をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば、看取りを行い支援できる体制を作っている。	入居時にホームの「終末期ケアの方針」を説明すると共に、「主治医や関係機関との連携、家族の協力を頂きながらの終末期ケアである」事の同意を頂いている。医療機関や看護師と連携し、職員間の情報共有を行い、家族も一緒に誠心誠意のケアが行われている。ご本人の「体調への不安」「死への不安」等を受け止めるように努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時、消防署より救命救急の講習をしていただいている。AEDの場所、使用方法通達している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施と地域の方々へ相談して災害時の情報や協力体制をお願いしている。	運営推進会議の時に訓練(夜間想定)を行い、消防署も参加して下さっている。建物はオール電化で、発電機や卓上コンロ、保存食や水を準備し、井戸水も利用できる。系列施設の応援体制も整えており、風水害、地震等の災害計画も作成している。浸水対策で敷地全体を地上げしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴時は、必ずドアを閉めて対応。日頃から言葉遣いには注意している。	ご利用者は人生の大先輩であり、言葉遣いに配慮している。居室に入る時はノック等を行い、入浴時等の羞恥心も配慮している。意思決定も大切にされており、ご本人の着たい洋服等を尋ねている。記録物を目の付く場所に置かないように注意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫を行い可能な限りご本人の意向を表現できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション活動などは声掛けを行いその他の活動も希望を伺っている。また、ご本人の体調に合わせて休息していただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント時のお化粧品やネイルの支援や定期的な散髪が出来るように支援をおこなっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会の時はお祝いのケーキを提供している	日々の食事は彩りも綺麗で、旬の食材を採り入れている。ご利用者も野菜の収穫や買物、盛り付け、食器洗い等をして下さり、干し柿や盆団子、切り干し大根、梅干し作りなどを一緒に楽しまれている。ご自分で食べる事ができるように、食器の色の工夫等も行われた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に応じた食事形態での提供を行っている。食事量や水分量をチェックして不十分な時は話し合い、対応策を検討、実施している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後きちんと口腔ケアを行い、必要に応じて介助を行い、異常があれば報告し、歯科往診の対応も検討している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせて、時間の調節、対応している。	トイレで排泄され、下着を着用する方もおられる。自立支援の視点を大切にされており、理念にある「あきらめない」ケアを続けている。ご利用者個々の排泄パターンを把握し、失禁が減った方もおられ、リハビリパンツから下着に変更できた方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の冷水の提供。腹部マッサージ。主治医への相談により下剤の使用。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が前日に次の日の入浴者を書いてご利用者に分かるように掲示している。前日に用意が出来る方は自分で用意して頂いている。	重要事項に「毎日入浴できます」と記載されている。湯温の調整、洗顔ソープの使用等もご要望に応じており、入浴時は職員との会話を楽しまれ、柚子湯や菖蒲湯等も楽しまれている。声かけのタイミングに配慮しており、入浴拒否も少ない。今後も小規模の機械浴の使用も検討する予定である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人希望や、その時の状況に合わせて居室やリビングソファにて休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や受診後は情報の共有を行い、薬事表で確認している。服薬前後は飲み忘れが無いように二人でチェックして、飲み込みまで確認する		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや、その方の好きなことをしていただいたり、お手伝いをしていただくことにより役割の支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は職員付き添いで散歩に行っていたりしている。買い物への外出やご本人の馴染みの美容室へ行って頂いている。	散歩の時に菜の花を摘み、リビングに飾られている。外出好きな方が多く、ご利用者個々に希望を伺い、広川町の和華やジョイフル(パフェ)、ゆめマート、庄屋、恵久保等で外食を楽しむ機会を増やしてこられた。四季折々の花見(桜やつつじ、等)も楽しまれ、公園で遊ぶ子供達の姿に「可愛かね」と癒されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額でなければ、ご本人、ご家族の理解があれば所持して頂いている。個人の美容室代はご本人の希望があり、保管管理行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの希望があれば、職員が御家族に電話し変わっていただいたり、面会にお願いをしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線上に危険物を置かないようにしている。季節に合わせたものの掲示、写真の掲示や花を飾っている。	リビングは広く、温湿度の調節も続けており、掃除は1日3回されている。季節の干支の飾りを作成したり、お手玉作りもされている。ホームの長い廊下で歩行訓練をされたり、ご利用者同士、ソファでゆったり団欒されている。ご利用者同士の関係に配慮し、座席の工夫なども行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空き時間でのソファでの交流支援		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた物を持ってきていただき、ご本人が使いやすいように配置している。	目の不自由な方は、ドアに色つきのタールを下げている。筆筒やテレビ、小さな植物、家族の写真等が飾られ、社長から頂いたお守りをベッドに下げている方もおられる。家族の遺影に毎日自分でお水を供えたり、居室の品物を必要最小限にした事で、穏やかに過ごされている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方に応じて、お手伝いや作業をいただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			